手紙

慶応二年十二月四日　坂本乙女あて

坂本龍馬

青空文庫

おとめさんにさし上る。

兼而（かねて）申上妻龍女ハ、望月亀弥太が戦死の時のなんにもあい候もの、又御国より出候もの此家ニて大ニセ話ニなり候所、此家も国家をうれへ候より家をほろこし候也。老母一人、龍女、いもと両人、男の子一人、かつへ〳〵ニて、どふもきのどくニて、龍女と十二歳ニなる妹と九ツニなる男子をもらい候て、十二歳の妹名きみへ、男子太一郎ハ摂州神戸海軍所の勝安房ニ頼ミたり。龍女事ハ伏見寺田や家内おとせニ頼ミ候。是ハ学文ある女尤人物也。今年正月廿三日夜のなんにあいし時も、此龍女がおれバこそ、龍馬の命ハたすかりたり。京のやしきニ引取て後ハ小松、西郷などにも申、私妻と為知（しらせ）候。此よし兄上ニも御申可被遣候。御申上なれバ、

京師柳馬場三条下ル所、

楢崎将作死後五年トナル。

右妻存命

私妻ハ則、将作女也。

今年廿六歳、父母の付

たる名龍、私が又鞆（トモ）トあらたむ。

此所にすミしが、
国家のなんとともニ
家ハほろびあとなく
なりしなり。

正月廿三日ののちナリ。

京の屋鋪ニおる内、二月末ニもなれバ嵐山にあそぶ人　、なぐさみにとて桜の花もて来り候。中ニも中路某の老母神道学者奇人也ハ実おもしろき人也。和歌などよくで来候。此人共私しの咄しおもしろがり、妻をあいして度々遣(つかひ)をおこす。此人ハ曽て中川宮の姦謀を怒り、これおさし殺さんとはかりし人也。本(もと)　禁中ニ奉行しておれバ、右よふの事ニハ、尤遣所おゝき人ナリ。公卿方など不知者なし。是より三日大坂ニ下り、四日に蒸気船ニ両人共ニのり込ミ、長崎ニ九日ニ来り十日ニ鹿児島ニ至り、此時京留居吉井幸助もどふ〳〵ニて、船中ものがたりもありしより、又温泉ニともにあそバんとて、吉井がさそいにて又両(ふた)りづれにて霧島山(キリシマヤマ)の方へ行道にて日当山(ヒナタヤマ)の温泉ニ止マり、又しおひたしと云温泉に行。此所ハもお大隅(おおすみ)の国ニて和気清麻呂がいおりおむすびし所、蔭見(インケンノタキ)の滝其滝の布ハ五十間も落て、中程にハ少しもさわりなし。実此世の外かとおもわれ候ほどのめづらしき所ナリ。此所に十日計も止りあそび、谷川の流にてうおゝつり、短筒(ピストル)をもちて鳥をうちなど、まことにおもしろかりし。是より又山深く入りてきりしまの温泉に行、此所より又山上ニのぼり、あまのさかほを見んとて、妻と両人づれニてはる／

〃＼のぼりしニ、立花氏の西遊記ほどニハなけれども、どふも道ひどく、女の足ニハむつかしかりけれども、とふ〳〵馬のせこへまでよぢのぼり、此所にひとやすみして、又はる／〃＼とのぼり、ついにいたゞきにのぼり、かの天（アマ）のさかほこを見たり。其形ハ是ハたしかに天狗の面ナリ。両方共ニ其顔がつくり付てある。からかね也。まむきに見た所也。

やれ〳〵とこしおたゝいて、はるバるのぼりしニ、かよふなるおもいもよらぬ天狗の面があり、大ニ二人りが笑たり。此所に来れバ実ニ高山なれバ目のとゞくだけハ見へ渡り、おもしろかりけれども何分四月でハまださむく、風ハ吹ものから、そろ〳〵とくだりしなり。なる程きり島つゝじが一面（メン）にはへて実つくり立し如くきれいなり。其山の大形（おおかた）ハ、霧島山より下り、きり島の社にまいりしが是は実大きなる杉の木があり、宮もものふり極とふとかりし。其所ニて一宿、夫より霧島の温泉の所ニ至ルニ、吉井幸助もまちており、とも／〃＼にかへり、四月十二日ニ鹿児島ニかへりたり。夫より六月四日より桜島と言、蒸気船ニて長州へ使を頼まれ、出船ス。此時妻ハ長崎へ月琴の稽古ニ行たいとて同船したり。夫より長崎のしるべの所に頼ミて、私ハ長州ニ行けバはからず別紙の通り軍をたのまれ、一戦争するに、うんよく打勝、身もつゝがなかりし。其時ハ長州侯ニもお目ニかゝり色　御咄しあり、らしやの西洋衣の地など送られ、夫より国ニかへり、其よしを申上て二度長崎へ出たりし時ハ、八月十五日ナリ。世の中の事ハ月と雲、実ニどフなるものやらしらず、おかしきものなり。うちにお

りてみそよたきゞよ、年のくれハ米うけとりよなどよりハ、天下のセ話ハ実ニおふざツパいなるものニて、命さへすてれバおもしろき事なり。是から又春になれバ妻ハ鹿児島につれかへりて、又京師の戦はじまらんと思へバ、あの方へも事ニより出かけて見よふかとも思ひよります。私し其内ニも安心なる事ハ、西郷吉之助の家内も吉之助も、大ニ心のよい人なれバ此方へ妻などハ頼めバ、何もきづかいなし。

此西郷と云人ハ七年の間、島ながしニあふた人にて候。夫と言も病のよふニ京の事がきになり、先年初て「アメリカ」ヘルリ」が江戸ニ来りし頃ハ、薩州先ン侯（セカウ〔斉彬〕）の内命ニて水戸に行、藤田虎之助の方ニおり、其後又其殿様が死なれてより、朝廷おうれい候ものハ殺され、島ながしニあふ所に、其西郷ハ島流の上ニ其地ニてろふニ入てありしよし、近頃鹿児島にイギリスが来て戦がありてより国中一同、彼西郷吉之助を恋しがり候て、とふ〳〵引出し今ハ政をあづかり、国の進退此人にあらざれバ一日もならぬよふなりたり。

人と言ものハ短気してめつたニ死ぬものでなし。又人おころすものでなしと、人　申あへり。まだ色　申上度事計なれども、いくらかいてもとてもつき不申、まあ鳥渡（ちよつと）した事さへ、此よふ長くなりますわ。かしこ〳〵。

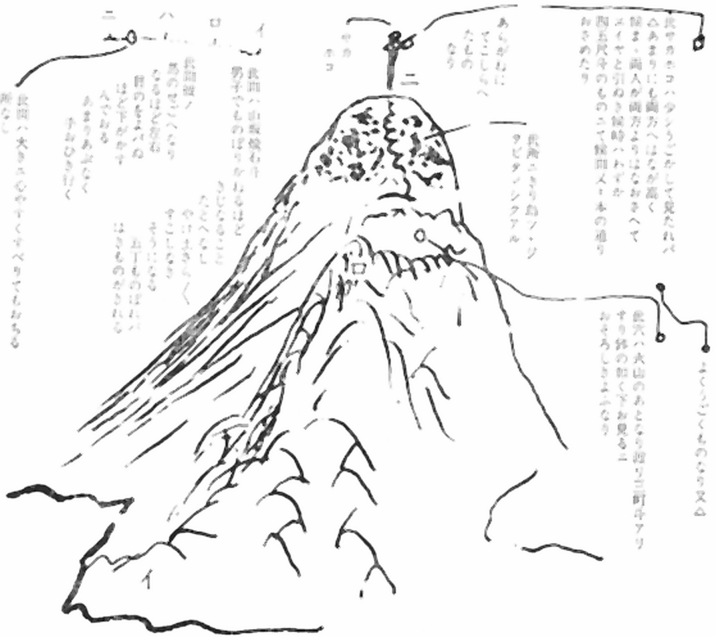
極月四日夜認

乙様

龍馬






ロ
ハ
ニ
イ

青空文庫情報

底本：「龍馬の手紙」宮地佐一郎、講談社学術文庫、講談社
2003（平成15）年12月10日第1刷発行
2008（平成20）年9月19日第7刷発行
※底本手紙の写真のキャプションに、（京都国立博物館蔵）とあります。
※丸括弧付きの語句は、底本編集時に付け加えられたものです。
入力：Yanajin33
校正：Hanren
2010年8月26日作成
2011年6月17日修正
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

手紙

慶応二年十二月四日　坂本乙女あて

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

著者　　坂本龍馬
URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/